

V. 重点プロジェクト

V. 重点プロジェクト

1. 重点プロジェクトの位置付け

「Ⅳ. 将来像の実現に向けた道筋」では、施策の展開にしたがって、各主体の取り組みを総合的、体系的に示しています。しかし、実際には、ここで示した取り組みをすべて同時に進めることは困難です。したがって、西東京市において今後、優先的に進める取り組みを「重点プロジェクト」として提案します。

重点プロジェクト

- ・ 目的に沿って、戦略的、優先的に行う取り組みを示す。
- ・ 目的とそのために必要な関連性のある複数の事業、取り組みからなる。
- ・ おおむね5年以内に一定の成果をあげることを目指す取り組みである。

重点1	歩行者・自転車中心の交通体系をつくろう
重点2	みどりに囲まれて豊かにくらそう
重点3	川を取り戻そう
重点4	エネルギーの利用を見直そう
重点5	ごみ資源化を進め、ごみを半減させよう
重点6	環境にやさしい事業者を育てよう
重点7	「身近で育てて食べられるみどり」をふやそう
重点8	環境保全活動を推進しよう

2. 重点プロジェクトの進め方

重点プロジェクトは、市・事業者・市民が連携し、またそれぞれの役割を果たすことにより推進していくものとします。

また、重点プロジェクトの進め方として、各重点プロジェクトごとに市民や関係機関による推進組織（推進部会）を立ち上げ、取り組みの実践に当たります。その中で、各部会の代表などが中心となって「推進協議会」を設置し、重点プロジェクト全体の取り組み状況を把握していくことを想定します。

3. 重点プロジェクトの内容

重点1 歩行者・自転車中心の交通体系をつくろう

住宅地では良好な生活環境の維持や住民の安全確保の面から、自動車利用のあり方を問い直し、生活道路への通過交通量を抑制することにより、自動車中心から人を中心とした地域をつくるのが重要です。また商業地域においては、歩行者を優先した、安心して買物ができるにぎわいのある街の形成を考えていく必要があります。

そこで、自動車での移動を中心とした道路交通のあり方を見直し、歩行者・自転車を優先した、交通体系をつくるための研究を進めます。

「道路交通のあり方」を考える

これまで行政中心に進められてきた道路交通政策を、よりきめ細かく、地域の実情に合わせたものとしていくために、市と事業者、市民が連携して、道路交通のあり方を考えていきます。

特に、中心市街地や住宅地における自動車利用のあり方について、社会実験の実施も含めた検討を行います。

< 取り組み >

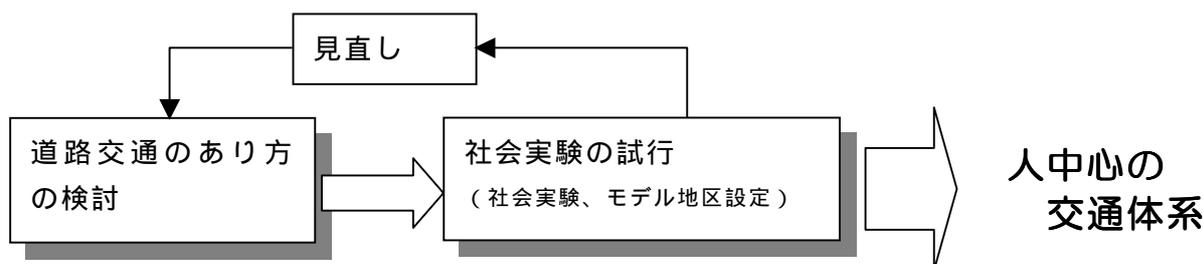
- ・市民が中心となって、道路交通のあり方に関して検討する会を立ち上げ、市や事業者の参加を呼びかける。検討会では、歩行者や自転車に配慮した道づくりのあり方についての方向性を「交通マスタープラン」などとして作成するとともに、住宅地や中心市街地における道路交通のあり方などに関して、社会実験の実施など具体的な検討を行う。・・・市・事業者・市民

道路交通の社会実験を試みる

住宅地や中心市街地における道路交通のあり方などについて検討を行った結果を、モデル地域を設けるなどして試験的に試みを始めます。その結果を踏まえて、以降の適用の継続や手法の見直しなどの検討を行います。

< 取り組み >

- ・道路交通の社会実験を、関係機関が連携して行う。・・・市・事業者・市民
- ・自動車利用を控え、徒歩や自転車、公共交通機関の利用を進めることを目指した運動を展開する。・・・市・事業者・市民



重点2 みどりに囲まれて豊かにくらそう

これまで、人口の増加とともに屋敷林などの樹林地や農地の多くが宅地などに変わりましたが、これからは残されたみどりを保全し、公園や住宅地などのみどりを増やしていくことが重要です。

そこで、住宅地や街路樹などの身近なみどりを、公共性のある大切なみどりとして認識し、市民が中心となって守り育てていくとともに、東大農場を緑地として保全し、また、農地、屋敷林を保全していきます。

身近なみどりを守り育てる

残された農地や屋敷林などの緑地も、公共事業や民間の宅地開発などにより徐々に減少していく傾向にあります。しかし、市民みんながみどりを大切にし、守り育てることで、うるおいのある街並みを作るだけでなく、ヒートアイランドの影響緩和などにも貢献できると考えられます。

そこで、市民の身近なみどりを守り育てるための取り組みを進めます。

< 取り組み >

- ・「みどりの里親制度」を創設する。公園や樹林地、街路樹などについて、地域住民が里親として登録し、清掃や草刈りなどの管理活動を行う。・・・市・市民
- ・武蔵野の花と雑草を集めたスペースを、既存の公園の一部や空地を利用して開設する。・・・市・市民
- ・みどりのトラスト制度の発足に向けた行動を展開する。・・・市・事業者・市民
- ・開発行為が行われる際でも、代替となる緑地の確保や屋上緑化などにより緑地を一定量維持するための仕組みを確立する。そのため、「(仮称)緑地確保条例」の制定などを検討する。・・・市

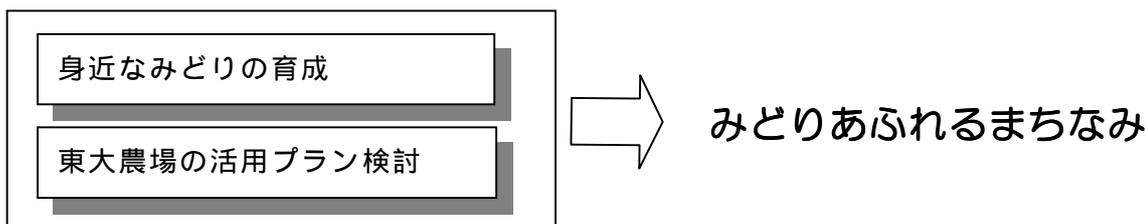
東大農場の今後の活用プランを検討する

東大農場は、市内に残されたまとまりのある緑地として非常に貴重な存在となっています。しかし今後、農場の移転が予定されていることから、市民の関心が高まっています。

そこで、市・事業者・市民が共に東大農場の緑地としての保全のあり方、今後の活用方法について検討していきます。

< 取り組み >

- ・東大農場は、移転後も緑地として残すため、構想・計画等を市民公募する。・・・市
- ・東大農場の移転後の保全、活用のあり方について、具体的な検討を行い、構想、計画を作成し、関係機関に提案、働きかけを行う。・・・市・事業者・市民



重点3 川を取り戻そう

かつて、石神井川は水がきれいで、トンボやホタルなどの生き物が多くすんでいました。土手にはヨシが茂り、水があちこちから湧き出ていたようです。しかし、洪水による被害を防ぐための改修工事が進められ、現在のような姿となりました。

しかしこれからは、このような都市化の進展によって失われた、人と水辺との触れあいや雨水から地下水、川へとつながる水の循環を取り戻していくための取り組みを進めます。

石神井川への関心を広げる

現在は、西東京市内では親しみやすい水辺がほとんど失われた状態であるといえます。そうした中では、市民の水辺への意識は低くなりがちです。そこで、石神井川において、水辺への関心を広げていくための取り組みを進めます。

< 取り組み >

- ・ 石神井川の自然、湧水などの状況について、市民による調査を行う。・・・市民
- ・ 石神井川周辺の美化活動を、市民が中心となって行う。・・・市・市民

石神井川を親しみやすい水辺にする

石神井川では、護岸の状況や水量が安定していないことなどから、市民が気軽に水辺と触れあえるような状況ではありません。そこで、市民が親しみやすい水辺を取り戻すための取り組みを進めます。

< 取り組み >

- ・ 石神井川の親水性向上に向けて、上下流の関係機関や各主体の連携により親水整備等の検討を行う。・・・市・市民
- ・ 石神井川の東伏見から武蔵関公園にかけては、東京都に働きかけ、親水公園としての整備を進めていく。・・・市
- ・ 道路整備などにおいては、透水性舗装を積極的に採用する。・・・市
- ・ 公共施設や住宅等における雨水浸透ますの設置や雨水が地下に浸透する面の確保を進める。・・・市・事業者・市民

石神井川への関心

親しみやすい水辺の創出

川を取り戻す

重点4 エネルギーの利用を見直そう

自動車の利用や電気・ガスの使用など、市民の日常生活で多くのエネルギーを消費している結果、二酸化炭素などの地球温暖化の原因となる温室効果ガスを排出し、また排熱によるヒートアイランド現象の助長などにもつながるおそれがあります。

そこで、市民みんなが日常生活の中で省エネを心がけるよう、市民の省エネ意識を広げていきます。さらに、再生可能なエネルギー資源として、太陽光や太陽熱の利用を進めていきます。

「(仮称)西東京市家庭版ISO」により、省エネ意識を広げていく

地球温暖化対策として二酸化炭素削減のため、省エネの取り組みを進めます。中でも市民の省エネ意識を広げていくことを目指して、「(仮称)西東京市家庭版ISO」を使った環境教育の実施や普及活動などを進めていきます。

< 取り組み >

- ・日常生活におけるエネルギー利用やごみの排出など、環境との関わりをチェックし、環境に対する意識を高めていくことを目的として、「(仮称)西東京市家庭版ISO」を作成する。・・・市・市民
- ・省エネ意識を広げていくための運動として、年に何度か市と市民の協働により、家庭版ISOの記載、普及に向けたキャンペーンを実施する。・・・市・市民
- ・小、中学校では、家庭版ISOを環境学習に取り入れる。・・・市
- ・社会教育の中では、家庭版ISOの普及に向けた講座を開催する。・・・市・市民

太陽エネルギーの利用を進める

地球温暖化対策の一環として、新エネルギーの利用を進めます。特に西東京市では太陽エネルギーの利用を中心に考えていくものとします。

< 取り組み >

- ・公共施設において太陽光発電施設を導入し、コストや発電量などの検証を行う。・・・市
- ・太陽光発電設備を設置している市民や事業所にモニターとして登録を呼びかけ、設置した効果などについての調査を行う。・・・市・事業者・市民

省エネ意識の浸透

太陽エネルギー利用の推進

地球温暖化対策、ヒートアイランド対策、省エネ省資源対策などへの貢献

重点5 ごみ資源化を進め、ごみを半減させよう

家庭から排出されるごみ（可燃物）の処理は、多くのエネルギーを消費し、環境への負荷を与えるものといえます。また、最終処分場の新たな確保も困難な状況であるため、柳泉園組合でのごみ焼却量の抑制、二ツ塚処分場への埋立量の削減を進める必要があります。

そこで、ごみの再資源化率の向上と排出されるごみの量の削減に向けた具体的な取り組みを進めていくものとします。

再資源化や収集処理方法の見直しを進める

プラスチック類などの再資源化への仕組みづくりを進めます。
また、ごみの発生が少なくなるような仕組みづくりとして、家庭ごみの収集方法の見直しや小売店での商品の販売方法、購入方法などの取り組みを進めます。

< 取り組み >

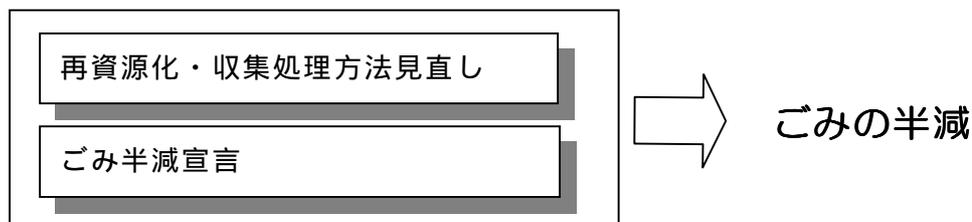
- ・現在不燃物として収集し、埋立て又は焼却されているその他プラスチック類を分別収集、再資源化する。・・・市
- ・小売店におけるレジ袋や食品トレーなどの使い方の見直しを進める。・・・事業者・市民
- ・市民が買い物袋を持参する「マイバッグ運動」を実施する。・・・市・市民
- ・ごみの分別や再資源化に関して、市民を対象とした講習会を実施する。・・・市・市民
- ・小、中学校でごみ問題に関する環境学習を行う。・・・市・市民

ごみ半減宣言をする

最終処分場への搬入量の半減を実現するためには、プラスチック類や紙類、生ごみ、剪定枝といったごみの再資源化のあり方を見直し、ごみ収集方法の検討、ごみ発生抑制に向けた小売店での販売方法の見直しなどについて、総合的に進めていく必要があります。そこで、こうした問題を市民が中心となって検討し、具体的な方針を提案していきます。

< 取り組み >

- ・「ごみ半減宣言」を打ち出し、具体的な方針を、各主体が合意できるような形で決定することを目指す。・・・市・事業者・市民
- ・「ごみ半減」に向けた仕組みを検討する。検討会議は市民、市、事業者の参加の元で行い、検討した結果をもとに、具体的な取り組みにつなげていく。・・・市・事業者・市民



重点6 環境にやさしい事業者を育てよう

事業者は、事業活動にともなうエネルギーや紙などの資源の消費、ものの生産、販売などを通して環境に負荷を与えています。そこで、事業者の積極的な環境への取り組みを進めていくことが重要です。

事業活動における環境への配慮を通じて、西東京市の環境保全に対する事業者の参加を進めていきます。

「(仮称)西東京市事業所版ISO」などにより、事業者の環境配慮を進める

事業活動の中でも積極的な環境への配慮が求められており、大規模な事業者を中心にISO14001の認証を取得する所も増えてきています。今後は、こうした事業者の環境配慮の動きを、小規模な事業者や商店街などにも広げていくことが重要です。事業者の連携により、「(仮称)西東京市事業所版ISO」やエコアクション21、ISO14001を通じて、事業者の環境配慮を進めていきます。

< 取り組み >

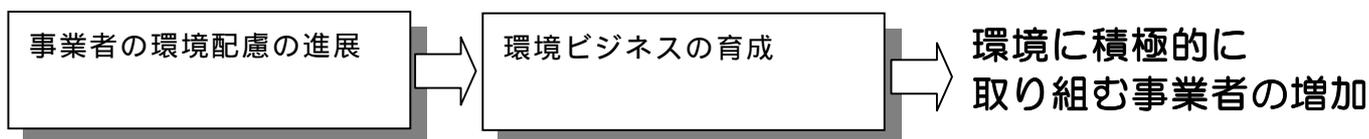
- ・商店街の中小商店や小規模な事業者では、ISO14001の取得は負担が大きいため、簡易に取得できる「(仮称)西東京市事業所版ISO」を作成し、普及を図る。・・・市・事業者・市民
- ・環境活動評価プログラム(エコアクション21)の普及を図る。・・・市・事業者・市民
- ・事業者の環境問題への取り組みを総合的・体系的に拡大するため、ISO14001認証の普及・取得支援などを計画・実施する。・・・市・事業者

環境ビジネスの芽を育てる

事業者の環境への配慮を進めるだけでなく、環境に関して積極的に事業活動を通して取り組んでいく事業者の育成を目指します。

< 取り組み >

- ・環境ビジネスを行う事業者と市が連携して、情報交換等を行う。・・・市・事業者
- ・環境ビジネスに関する講習会を開催する。・・・市・事業者・市民
- ・市民団体や事業者の環境ビジネスへの参入に対して、支援策の検討を行う。・・・市・事業者



重点7 「身近で育てて食べられるみどり」をふやそう

新鮮で安全な食物への関心の高まりを受けて、地場の農産物が注目されるようになってきており、また農産物の輸送によるエネルギー消費や地域の農地の保全といった観点からも、地域でとれた農産物を地域で消費する地産地消が重要といえます。

そこで、地元の農産物消費を増やし、生ごみや剪定枝を堆肥として農地に返してやることにより、「食べられるみどり」を通した物質循環型の都市づくりを目指します。

地元農産物の利用を増やす

地元農産物の利用を進めていくためには、誰もが手軽に地元農産物を手に入れられるようにすることが重要です。そこで、さまざまな流通形態を通じて、地元農産物の販売を増やしていきます。

また、市民による地元農産物の利用を進めることは、地域の農家を支えることにつながります。市民の地産地消意識の高揚や、学校給食における地元農産物の利用などを通じて、地元農産物の消費を増やしていきます。

< 取り組み >

- ・地産地消の推進に向けて、今後の取り組みの方針等を打ち出す。・・・市・事業者・市民
- ・学校給食で地元農産物の利用を増やしていく。・・・市・事業者
- ・小売店における地元農産物の取り扱いを増やしていく。・・・事業者・市民
- ・農産物産直契約などにより、地域内での農産物の販売・利用を実践する。・・・事業者・市民
- ・西東京市ブランドの農産物を育成し、地域での消費に結びつけていく。・・・市・事業者・市民

生ごみや剪定枝を資源として利用する

家庭などから排出される生ごみや剪定枝は、堆肥化などにより、資源として活用することが可能です。現在は、公団住宅（グリーンプラザひばりが丘南）や学校において、生ごみ堆肥化事業が行われていますが、ここでの成果をみながら、新たなモデル地域の設定などにより、生ごみの収集、再資源化を試行的に進めていきます。

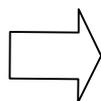
また、農家による堆肥の需要を確保するための仕組みも検討していきます。

< 取り組み >

- ・グリーンプラザひばりが丘南や小中学校における生ごみ堆肥化事業について、その効果や問題点などを検証する。・・・市・事業者・市民
- ・地域の住民と協議しながら、生ごみや剪定枝の回収、堆肥化を行うモデル地区を新たに設定し、具体的な取り組み内容を検討する。・・・市・事業者・市民
- ・学校給食から発生する生ごみの堆肥化を推進する。・・・市
- ・堆肥の利用を行う農家を募り、農地を「(仮称)堆肥利用農園」などとして認定し、生産物の市内での販売などを優遇する制度を検討する。・・・市・事業者

地元農産物の利用促進

生ごみ・剪定枝の資源化・利用



「食べられるみどり」を通した物質循環型のまちづくり

重点8 環境保全活動を推進しよう

環境保全を進めていくためには、市民みんなが環境意識を高め、環境保全に向けた取り組みを進めていく必要があります。そのために、環境に関する情報を積極的に発信し、市民の環境への関心や理解を呼び起こすとともに、活動する人づくりと、活動を支える基盤づくりの観点から、市民による環境保全活動を包括的に推進していくための仕組みをつくっていきます。

環境マップをつくる

今後想定される環境保全に関する様々な取り組みの共通の基盤となる情報として、「環境マップ」をつくります。マップづくりの過程では、子どもを含む市民と市が連携して進めます。また作成した環境マップは、市民意識の啓発、各種市民活動の基礎資料などとしての活用などを期待します。

< 取り組み >

- ・様々な取り組みの共通の基盤となる情報を「環境マップ」として整備する。・・・市・市民

環境情報・環境活動拠点を位置付ける

市民活動や事業者の取り組みなどの情報収集、発信を継続していくために、環境情報の拠点を位置付けます。拠点は、市民活動を包括的に支援するよう、情報提供や市と市民団体との接点としての役割を果たすものとしします。また、情報拠点を、市民による環境保全活動の拠点としても活用します。

< 取り組み >

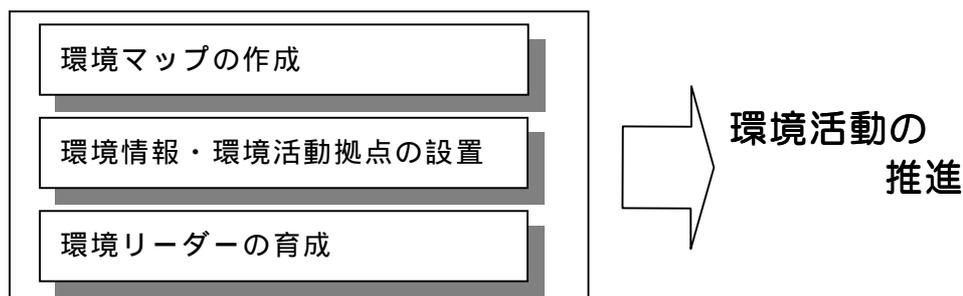
- ・(仮称)リサイクルプラザの中に、環境情報・環境活動の拠点として、環境学習・活動センターを設置する。・・・市・市民
- ・小中学校を環境学習拠点として位置づけ、関係機関が連携して環境学習を推進する。・・・市・市民
- ・市民・事業者・行政を結ぶ意見交換の場、環境学習のための情報ソース、市民団体等の環境保全活動の推進などに役立つような環境情報を整理して発信する。・・・市・市民

環境リーダーを育てる

市民による環境保全活動をさらに進めていくためには、環境への取り組みを先頭に立って進めていく人材の育成が重要といえます。そこで、このような人材として「西東京市環境リーダー」を育成し、環境リーダーを中心とした市民の環境保全活動の広がりに結びつけていきます。

< 取り組み >

- ・環境リーダーを育成するための環境学習プログラムを作成する。・・・市・市民
- ・環境学習プログラムの修了生をグループ化し、その後の地域活動実践に取り組むシステムを構築する。・・・市・市民



4. 重点プロジェクト推進の流れ

各重点プロジェクトは、おおむね以下のような流れで推進していくことを想定します。

重点プロジェクト	実施スケジュール		
	平成 16 年度	平成 20 年度	
重点 1 . 歩行者・自転車中心の交通体系をつくろう			
道路交通のあり方の検討	プランの検討		人中心の交通体系
社会実験の試行	試行 継続・見直し		
重点 2 . みどりに囲まれて豊かにくらし			
身近なみどりの育成	みどりの里親 緑地確保条例の検討		みどりあふれるまちなみ
東大農場の活用プラン検討	プランの検討		
重点 3 . 川を取り戻そう			
石神井川への関心	調査、美化活動など		川を取り戻す
親しみやすい水辺の創出	あり方の検討		
重点 4 . エネルギーの利用を見直そう			
省エネ意識の浸透	家庭版 I S O 作成 普及		地球温暖化対策、ヒートアイランド対策、省エネ省資源対策などへの貢献
太陽エネルギー利用の推進	モニター登録・調査 推進方策検討		
重点 5 . ごみ資源化を進め、ごみを半減させよう			
再資源化・収集処理方法見直し	再資源化推進・マイバック運動・講習会		ごみの半減
ごみ半減宣言	検討・ごみ半減宣言 ごみの発生量削減に向けた取り組みの展開		
重点 6 . 環境にやさしい事業者を育てよう			
事業者の環境配慮の進展	西東京市版 I S O 作成 普及		環境に積極的に取り組む事業者の増加
環境ビジネスの育成	情報交換・講習会		
重点 7 . 「身近で育てて食べられるみどり」をふやそう			
地元農産物の利用促進	方針検討・西東京市ブランド育成		「食べられるみどり」を通じた物質循環型のまちづくり
生ごみ・剪定枝の資源化・利用	生ごみ堆肥化事業の検証 モデル地区・堆肥利用農園などの検討		
重点 8 . 環境保全活動を推進しよう			
環境マップの作成	作成 マップの活用		環境活動の推進
環境情報・環境活動拠点の設置	拠点の構想 拠点の活用・情報発信		
環境リーダーの育成	リーダーの育成		